

氏名	仲嶺 真
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	博甲第 8203 号
学位授与年月	平成 29年 3月 24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	社会的ネットワーク外の異性関係開始と女性の意思決定過程

主査	筑波大学教授	文学博士	松井 豊
副査	筑波大学教授	博士（心理学）	相川 充
副査	筑波大学教授	博士（心理学）	佐藤 有耕
副査	東京未来大学教授		大坊 郁夫

論文の内容の要旨

仲嶺 真氏の博士學位論文は、社会的ネットワーク外で起こる異性関係開始に際して、女性がどのような意思決定を行なっているかを検討したものである。その要旨は以下の通りである。

（目的）

著者は、これまでの異性関係開始に関する研究が、学校や職場などの既存の社会的ネットワーク内を念頭に置いて検討されている一方、実際はそのようなネットワークを超えて（社会的ネットワーク外）異性関係が開始する可能性があることを指摘している。しかし、この領域に関する社会心理学的検討が不十分であり、以下の問題点があると述べている。第一に、異性関係開始において話しかける側に偏った検討が行われていた点、第二に、話しかける側から話しかけられたときに、話しかけられる側がどのような判断をしているかが不明であった点、第三に、話しかけられる側がどのような順序でどのような内容を判断して、話しかける側と会話するあるいはしないを決定しているか（意思決定過程）が不明であった点、の3つの問題点を指摘している。そして、本論文では、以上の問題点を踏まえ、社会的ネットワーク外の一つとして街中に着目し、街中で初対面の男性から話しかけられた女性が、男性と会話するかどうかを決めるまでにどのような内容の判断をしているのか、すなわち、女性の意思決定過程を時間的順序性の観点から検討している。

（方法）

研究1では、どの程度の女性が街中で初対面の男性から話しかけられた経験があるのかを明らかにした上で、街中で初対面の男性から話しかけられた女性はどのような内容の判断をしているのか、判断した内容と男性との会話の有無を回顧法により検討している。

研究2では、女性の意思決定過程に影響を及ぼすと考えられた個人特性（ソシオセクシャリティおよび街中で話しかけへの態度）を測定する尺度を作成している。

研究 3 では、街中で初対面の男性から話しかけられた女性の意思決定過程を検討し、個人特性が意思決定過程に及ぼす影響を検討している。

研究 4 では、これまでの研究で得られた知見が、現実場面にも適用可能かを確認するため、セミフィールド実験を行なっている。

(結果)

研究 1 では、以下の 4 点を明らかにしている。第一に、約 8 割の女性が少なくとも 1 回は街中で初対面の男性から話しかけられた経験があり、約 7 割の女性は複数回の経験があったことである。第二に、街中で初対面の男性から話しかけられたときに女性が行う判断として、危険度判断（危険な予感がするなど）、人柄判断（男性は悪い人ではなさそうなど）、意図推測（男性には下心があるなど）、相貌判断（男性は好みのタイプなど）、状態判断（空き時間があるなど）、状況判断（周囲には人がいるなど）の 6 種類の判断があったことである。第三に、女性の危険度判断、人柄判断、意図推測が話しかけてきた男性と会話するかどうかと強く関連していたことである。第四に、話しかけられた際に女性が感じるネガティブ感情は、男性と会話しないことと関連する一方、ポジティブ感情は、会話するかどうかを決めるまでの時間が長くなることと関連していたことである。

研究 2 では、ソシオセクシャリティの 3 因子構造を確認し、基準関連妥当性、再検査信頼性を示している。加えて、街中での話しかけへの態度の 2 因子構造を確認し、基準関連妥当性、再検査信頼性を示している。

研究 3 では、重要情報判断（危険度判断、人柄判断、意図推測）が、意思決定過程の前半で生じ、追加情報判断（相貌判断、状態判断、状況判断）が、意思決定過程の後半で生じることを明らかにしている。加えて、ソシオセクシャリティや街中での話しかけへの態度は、判断の順序性には影響しない一方、ソシオセクシャリティはリスクを低く認知させることに影響し、街中での話しかけへの否定的態度は、リスクを高く認知させることに影響することを明らかにしている。

研究 4 では、セミフィールド実験を実施し、女性の意思決定過程が、重要情報判断、追加情報判断の順で生じることを確認している。

(考察)

以上の実証的検討から、著者は、街中で初対面の男性から話しかけられた女性の意思決定過程モデルを提唱している。重要情報判断の段階においてリスクが高いと判断するか、低いと判断するかに応じて、追加情報判断の段階で、男性と会話するかどうかの基準が異なることを考察している。加えて、同モデルに基づく、社会的ネットワーク内と社会的ネットワーク外を包括した、既存の異性関係開始に至る概念モデルを拡張している。最後に、本論文で提唱したモデルの理論的位置付けや、今後の課題、社会的含意について述べている。

審査の結果の要旨

(批評)

本論文は、従来検討されていない、社会的ネットワーク外の異性関係開始における女性の意思決定過程について、調査と実験という多様な手法を用いて検討していた。また、異性関係に関する領域だけでなく、リスク研究と本現象とを関連づけて考察することで、オリジナリティのある知見をもたらしていると評価された。

平成 29 年 1 月 24 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（心理学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。